

平成24年度在宅医療連携拠点事業 活動報告

平成25年2月2日（土）

富山県上市町福祉課
在宅医療連携班

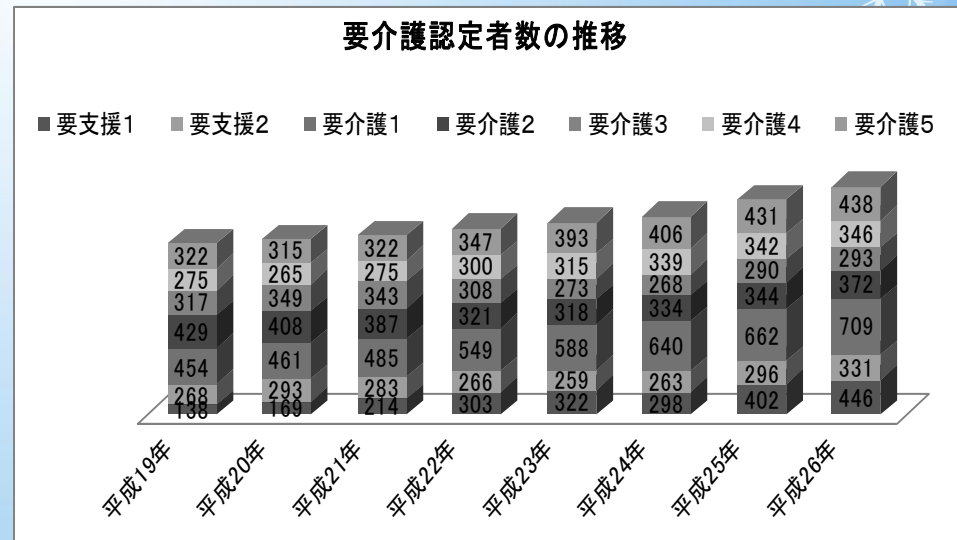
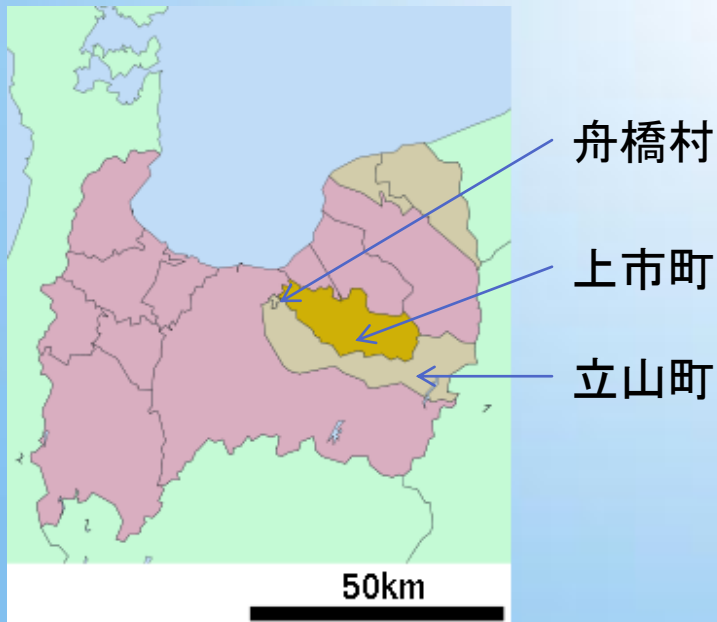


上市町マスコットキャラクター
つるぎくん

活動対象地域の情報

	人口	世帯数	65歳以上	高齢化率	独居高齢者世帯 (町村把握分)
上市町	22,110	7,435	6,520	29.5	789
立山町	27,410	9,077	7,408	27.0	746
舟橋村	3,020	880	488	16.2	29
中新川郡計	52,540	17,392	14,416	27.4	1,564

資料：H24.4.1現在の住民基本台帳等



資料：介護保険事業状況報告（各月9月末現在）
平成25、26年は中新川広域行政事務組合第5期介護保険事業計画

中新川地域の医療・福祉資源

H24.12月末現在

施 設	施設数
病院	2
診療所	20
うち在宅医療支援診療所	1
歯科診療所	17
調剤薬局	18
訪問看護ステーション	2
居宅介護支援事業所	16
訪問介護支援事業所	9
通所リハビリテーション事業所	3
短期入所生活介護	6
短期入所療養介護	2
介護老人福祉施設	3
介護老人保健施設	2
地域密着型サービス事業所	6

多職種連携の課題に対する解決策の抽出

- 1) 在宅医療福祉従事者にアンケート調査
(5月)
- 2) 多職種参加による在宅医療推進連絡会
の開催 (年4回)
- 3) コメディカルの方を対象とした情報交換会
の開催 (年1回)

1) 在宅医療福祉従事者にアンケート調査

● 対象施設（42施設） 回収施設（37施設）

事業所	配布数	回収数	回収率
居宅介護支援事業所	36	35	97%
訪問看護ステーション	16	16	100%
訪問介護事業所	105	72	69%
通所系（DS、DC）	298	150	50%
短期入所系（療養、生活）	59	42	71%
認知症対応型共同生活介護	72	71	99%
小規模多機能型居宅介護	43	29	67%
総合病院（地域連携室）	10	8	80%
地域包括支援センター	19	14	73%
全体	658	437	66%

（5月現在）

1) 在宅医療福祉従事者のアンケート調査結果

(1) 医療福祉連携に関する課題

- 医師との連携（中新川地域外の医師との連携は図りにくい）
- 歯科医師・薬剤師との連携（知識不足、連携方法や役割の不明瞭化）
- 多職種との連携（各々の立場の相互理解が不十分、情報交換・交流が不十分）
- カンファレンス、担当者会議の必要性について理解不足がある

(2) 本人・家族（介護者）に関する課題

- 介護力不足
- 経済的問題
- 家族の抱える問題

(3) 医療福祉従事者に関する課題

- マンパワー不足
- 医療に関する知識不足
- 24時間対応
- 情報交流の場がない

2) 在宅医療推進連絡会



● 参加事業所

- 病院（地域連携室含む）
- 歯科医院
- 居宅介護支援事業所
- 訪問介護事業所
- 短期入所施設
- 小規模多機能型居宅介護
- 行政 等
- 診療所
- 調剤薬局
- 訪問看護ステーション
- 通所施設
- 認知症対応型共同生活介護
- 地域包括支援センター

2) 在宅医療推進連絡会

第1回 平成24年 6月13日（水）

「在宅医療の推進」

講師 富山県中部厚生センター

所長 垣内 孝子氏

意見交換会（グループワーク）

「在宅医療についての思い」

第2回 平成24年 8月1日（水）

事例検討

「本人・家族が希望する在宅での
看取りが実現した事例」

実際に在宅で看取りを行った

家族の体験談

第3回 平成24年 12月19日（水）

「在宅医療を担っていく私たちの役割」

（グループワーク）

アドバイザー

新川地域在宅医療療養連携協議会

会長 中川 彦人 氏

ほたるの里

施設長 松原 良子 氏

第4回 平成25年 2月8日（金）

（開催予定）

事例検討

「医療依存度の高い在宅療養者の
支援について」

2) 在宅医療推進連絡会 (アンケート調査からの課題)



第1回

在宅医療に対する考え方に温度差がある
多職種との連携の方法や関わり方がわからない
各職種間での共通目標を持つ話し合いがない
多職種の役割

医師の多忙、在宅医療福祉従事者の仕事が多様で連携が図りにくい



第2回

資源が少ない（かかりつけ医、土日祝日のサポート体制、24時間体制等）
在宅医療に関する住民への普及
知識の不足（支援できるか不安）



第3回

老老・認認介護の医療連携についても話し合い（予防的視点）
災害時などの対応についても話し合い



3) 情報交換会

● 平成24年 9月19日（水）午後7時～8時30分

「在宅医療・介護の現状と多職種連携について」
—KJ法を用いて—

南砺市民病院地域連携科 竹内 嘉伸 氏

3) 情報交換会

- 「何を目的に連携しますか」

目的 → 在宅生活の継続



- 「病院、在宅医療、介護支援専門員、在宅介護に期待すること」

施設	期待すること
病院	・ 緊急時の受け入れ、24時間対応、退院前カンファレンスの開催
在宅医療	・ 訪問診療や往診や訪問リハビリの回数を増やしてほしい ・ 内服管理をわかりやすくしてほしい
介護支援専門員	・ 事業所・病院・家族との連絡調整 ・ 利用者に応じたサービスの提供
在宅介護	・ 情報提供（訪問時に異常があったら教えてほしい）

- 感想

- いろんな視点で意見を聞くことができた
- 同職種間で関係が深まり、共有できることがあり勉強になった
- 各々の職種に対しての役割認識が低いので、活動内容に対しての説明がほしい

在宅医療従事者の負担軽減の支援

1) 24時間対応の在宅医療提供体制の構築

- ・ 開業医同士のチームづくり 郡医師会の取り組み

主治医・副主治医制

- ・ 診療所と病院の連携体制構築

病院の後方支援体制等に向け、話し合いの場の設定・資料作成等

- ・ チームによる医療・介護サービス提供に向けた連携支援

顔の見える関係づくり、在宅医療連携の必要性の共通認識、

地域資源の把握・周知

たてやまつるぎ在宅ネットワーク

目的

自宅で医療的なケアを必要とする療養者に対して、開業医同士の連携を中心に、病院、薬局、訪問看護ステーション、介護サービス事業者などのチームによる効果的な支援を行う。

構成員

中新川郡医師会、中新川郡歯科医師会、かみいち総合病院、富山県薬剤師会中新川支部、中新川郡訪問看護ステーション、中新川郡行政機関・地域包括支援センター、中新川介護支援専門員協会、その他関係機関

会議

1回目 5月23日（水）午後7時半～ 会設立・郡内の在宅医療の現状

2回目 3月 6日（水）午後7時半～ ネットワーク体制等

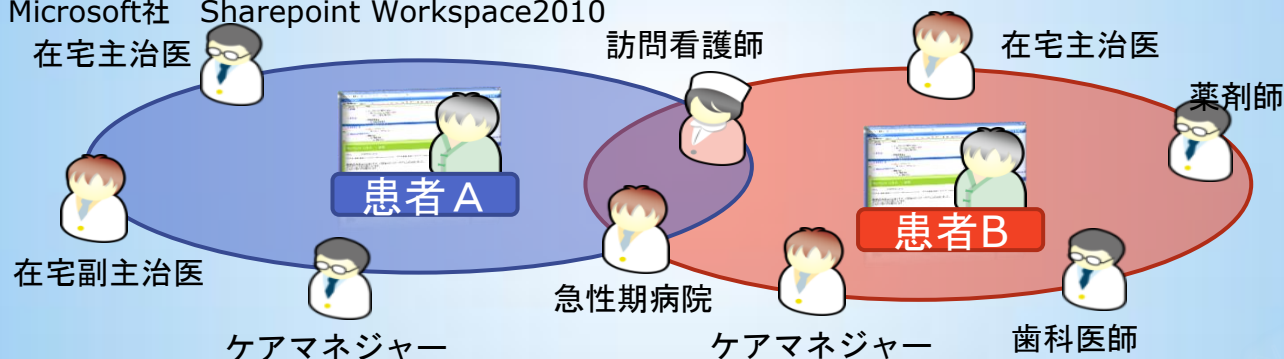


在宅医療従事者の負担軽減の支援

2) チーム医療を提供するための情報共有システムの整備

「中新川郡在宅連携システム」の導入 2012年9月運用開始

Microsoft社 Sharepoint Workspace2010



導入状況（1月現在）

診療所 4、病院 1、歯科診療所 2、調剤薬局 6、居宅介護支援事業所 13、

訪問看護ステーション 2、訪問介護事業所 2、通所介護事業所 3、小規模多機能 1、拠点 1

選定理由

- ・隣接医療圏（富山県新川地域）で有効活用されており、活用方法等も参考にさせてもらった
- ・使いやすいシートで、安全性が高い

中新川郡在宅連携システム導入にあたって

導入時アンケートより 回答者（利用申請者）77名

- ・ 患者情報の共有は必要か？ 必要100%
- ・ 情報共有を行っているか？ 行っている76.6%
- ・ 情報共有の方法（上位5）

これまで	今 後
1. 退院カンファレンス	1. 在宅連携システム
2. サービス担当者会議	2. 退院カンファレンス
3. ケアプラン	3. サービス提供記録ノート
4. サービス提供記録ノート	4. 在宅患者緊急カンファレンス
5. 主治医意見書	5. ケアプラン

- ・ 活用したい理由は？
 1. 事業所にいながら情報が得られる
 2. 患者の新しい情報が迅速に得られる
 3. 他のスタッフに時間を気にせず情報を伝達できる 等

中新川郡在宅連携システム

拠点の役割

- システム利用規定の決定
- 利用申請書・同意書等各種書類の作成
- システム導入説明会の開催
- 導入支援、情報バックアップ
- システム利用方法問い合わせ対応

共有情報

- ・在宅ケア基本情報
- ・在宅診療報告書
- ・サービス予定表
- ・ディスカッション
- ・写真等

今後の課題

- ・まずは使い慣れてもらうこと
- ・情報共有シートの整理

効率的な医療提供のための多職種連携

- 地域ケア会議、退院前カンファレンス、リハビリカンファレンス、訪問看護カンファレンス等に参加
- 歯科医師との連携方法などについて検討中
- 医療・衛生材料の小売りについては、たてやまつるぎ在宅ネットワークと薬卸業者と検討中（来春4月に運営予定）
- 連携シート作成検討予定（3月より）

（＊入院時には在宅から病院へ、退院時には病院から在宅へ、
情報提供を行うシート）

- ITツール利用患者が増えてきているため
来年度パスを作成する予定

（総合病院と話しあっている最中）

- 中新川郡在宅医療資源ガイド作成 ➡



在宅医療に関する地域住民への普及啓発

1) 在宅医療講演会3回

(各町村1回)

2) 広報

3) 在宅通信

4) ホームページ

5) 在宅医療マップ

6) 出前講座

在宅医療講演会

- 第1回 9月30日（日）13：30～15：30 参加者36名
（上市町）講演「住み慣れた地域で安心して暮らすには」
南砺市民病院長 南眞司先生
サービス紹介
- 第2回 10月11日（木）13：30～15：00 参加者45名
（舟橋村）講演「住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らすには」
富山県中部厚生センター所長 垣内孝子先生
サービス紹介
- 第3回 11月8日（木）19：00～20：30 参加者35名
（立山町）講演「町の開業医ができること」
川瀬医院長 川瀬紀夫先生
サービス紹介



在宅医療講演会のまとめ

参加者アンケートより

参加者の年齢 40～64歳（43.2%） 65～74歳（35.8%）

参加のきっかけ 1位 在宅医療・介護に関心があったため

2位 自分や家族の将来のことを考えて

講演会の認知 1位 ちらし 2位 広報 3位 知人

在宅医療サービス紹介の理解 よく理解できた・理解できた82.5%

講演会の評価 大変良かった・良かった92.7%

参加者意見

- ・在宅医療の必要性和方法を深く理解できた。
- ・自宅で最期を迎えること、在宅支援を受けることなど、少し覚悟ができた。
- ・在宅医療に関する講演会を増やしてほしい。もっと多くの人に聞いてほしい。
- ・安心、満足できる在宅医療が受けられるような地域体制になるよう期待。



たてやまつるぎ在宅通信

第1号 平成26年1月発行
在宅医療連携拠点事業所：上市町福祉課



あいさつ

上市町長 伊東 尚志

上市町は、平成24年10月現在で65歳以上の方が6,677人、高齢化率は30.3%の超高齢社会となりました。今後ますます高齢化が進む中、だれもが安心して幸せな生活を送ることができることは、町民の願いであり、町政のもっとも重要な課題のひとつであります。

町では、平成24年4月より国の委託を受け、在宅医療連携拠点事業に取り組んでいます。この事業では、いくつになっても安心して我が家に住み続けることができる社会の実現のため、地域における医療と介護の連携を図り、様々な支援を切れ目なく提供できるように多職種連携を強化し、限られた医療、保健、福祉資源を効率よく活用できる仕組みの構築に取り組んでいます。

今後10年間の準備が非常に重要で、その次の10年間に備え十分な準備ができるよう「何が必要なのか」「何ができるのか？」を整理し、町民の皆様の声を聞きながら、包括的かつ継続的な在宅医療の実現に向け、準備していきたいと思っております。

「たてやまつるぎ在宅ネットワーク」とは・・・

- ・平成24年5月に設立
- ・目的

自宅での医療的なケアを必要とする患者者に対して、開業医、薬剤師、看護師、介護士、福祉士などのチームによる効果的な支援を行う。

・構成

中新川郡医師会、中新川郡歯科医師会、かみい総合病院、富山県薬剤師会中新川支部、中新川郡訪問看護ステーション、中新川郡内行政機関・地域包括支援センター、中新川介護支援専門員協会 等



第1回たてやまつるぎ在宅ネットワーク会議



第1回在宅医療推進連絡会

「中新川郡在宅連携システム」を導入しました！
在宅医療患者様を担当する関係機関間で情報を共有し、連携するためのシステムです。

福祉課より

4月から上市町福祉課に在宅医療連携班ができました。この班では、在宅医療・介護従事者の多職種連携の支援を行っています。平成24年度は、たてやまつるぎ在宅ネットワークの事務局、中新川郡在宅連携システムの導入・運用支援、在宅医療推進連絡会の開催などを担当しております。

また、町民の皆様には、在宅医療はなぜ注目されているのか、在宅医療とはどんなことかを知っていただくために、講演会の開催、普及啓発活動を行っております。

地域包括ケアの実現は、今後の課題が必要であり、まだ1年目と至らない点も多々ありますが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



在宅医療講演会

第1回 場所：上市町保健福祉総合センター

9月30日(日)午後、テーマ「在宅医療でできること」とし、講演及びサービス紹介が行われ、住民及び在宅医療福祉関係者36名が在宅医療について理解を深めました。

講演では、南砺市市民病院南真司院長が「住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らすには」と題して、南砺市と南砺市市民病院における地域包括医療・ケアの取り組みを紹介されました。中でも、地域包括医療・ケアのポイントは自助、共助、公助、互助の4つの「助け合い」で地域を作り上げること、特に地域住民が家庭や地域の絆を強くすることが重要だと語られました。講演前には、上市町で実際に在宅医療を支える関係者をはじめ、総合病院医師、訪問看護師、ケアマネジャー、ホームヘルパーによるそれぞれのサービス紹介が行われました。



第2回 場所：舟橋会館

10月11日(木)午後、テーマ「これからの医療と介護の連携」とし、講演及びサービス紹介が行われ、住民及び在宅医療福祉関係者45名が在宅医療について理解を深めました。

講演では、南砺市市民病院南真司院長が「住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らすには」と題して、南砺市と南砺市市民病院における地域包括医療・ケアの取り組みを紹介されました。中でも、地域包括医療・ケアのポイントは自助、共助、公助、互助の4つの「助け合い」で地域を作り上げること、特に地域住民が家庭や地域の絆を強くすることが重要だと語られました。講演前には、上市町で実際に在宅医療を支える関係者をはじめ、総合病院医師、訪問看護師、ケアマネジャー、ホームヘルパーによるそれぞれのサービス紹介が行われました。

また、町民の皆様には、在宅医療はなぜ注目されているのか、在宅医療とはどんなことかを知っていただくために、講演会の開催、普及啓発活動を行っております。

地域包括ケアの実現は、今後の課題が必要であり、まだ1年目と至らない点も多々ありますが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

「たてやまつるぎ在宅ネットワーク」とは・・・

自宅での医療的なケアを必要とする患者者に対して、開業医、薬剤師、看護師、介護士、福祉士などのチームによる効果的な支援を行う。

「中新川郡在宅連携システム」を導入しました！
在宅医療患者様を担当する関係機関間で情報を共有し、連携するためのシステムです。

「たてやまつるぎ在宅ネットワーク」とは・・・

自宅での医療的なケアを必要とする患者者に対して、開業医、薬剤師、看護師、介護士、福祉士などのチームによる効果的な支援を行う。

「たてやまつるぎ在宅ネットワーク」とは・・・

「たてやまつるぎ在宅ネットワーク」とは・・・

在宅医療に従事する人材育成

- 都道府県リーダー研修会受講

地域リーダー研修会開催予定 2月17日（日）

- 従事者研修会

第1回 6月13日（水）午後7時半～ 参加者100名 兼第1回推進連絡会

講演「在宅医療の推進」と意見交換（グループワーク）

第2回 1月11日（金）午後7時～ 参加者54名

講演「在宅医療・療養における効果的な連携の在り方」

講師 オレンジホームケアクリニック 紅谷 浩之先生

第3回 3月22日（金）午後5時半～

講演「退院調整から在宅療養へ～地域包括ケアの実現に向けて～」

講師 在宅ケア移行支援研究所 宇都宮 宏子先生



今後の課題

- 在宅医療推進連絡会の継続
- 職種ごとの情報交換・研修会開催
- 住民への普及啓発の継続と充実
- 中新川郡在宅連携システムの活用
- 同医療圏内の医師会・市町村との連携
- 事業継続のための予算の確保

ご清聴ありがとうございました

